人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光ＮＰＯ」が発信する隔月刊情報紙　第４５号　発行日２００７年１月２５日

Contents

全国ネットへ、東北、中国支部開設へ ―― 1
JN協会の活動2006年、研究会など ―― 2
フォーラムin横浜、講演の概要 ―― 3
霞が関情報（藤野参院議員）、予算 ―― 4
観光人国記（佐々木青森市長、女将） ―― 5
新年ご挨拶（丹羽、坂本、松尾） ―― 6
新年ご挨拶（須田、横山）、須田受賞 ―― 7
観光立国セミナーから（古賀氏） ―― 8
DMV試乗記（山内）、COLUMN ―― 9
美味しい話、お得な旅情報 ―― 10
オイルは2030年ピーク？、あめりか通信 ―― 11
天気予報と俚諺、団体会員名簿 ―― 12

【八甲田山】標高1585ｍの大岳をはじめ複数の山からなる連峰。新緑、紅葉、樹氷、豊富な温泉など、春夏秋冬、市民や観光客の目を楽しませ、心と体をリフレッシュできる観光地。景観や動植物の豊かさを誇る八甲田の自然は、それだけで青森市民にゆとりと安心感をもたらす。とくに「あおもりのおいしい水」の源であり、青森市民にとってまさに恵みの山である。（撮影2001年4月・和田光弘）

巻頭言

10支部開設で全国ネットワークの完成を目指す

４月には仙台に東北支部を新設　中国支部も

５月総会では石原・都知事の講演会を計画中

発足６年目を迎えたＪＡＰＡＮ　ＮＯＷ観光情報協会（松尾理事長）は、平成19年の活動方針として４月には９つ目の支部として仙台市に東北支部を開設し、広島市にも中国支部を新設するため準備を進めている。東北、中国支部ができるとＪＮ協会は主な経済圏に10個所の支部が開設され、全国ネットワークが完成、「都市再生・観光振興・環境保全」の活動目的が円滑に展開できることになる。

政府は道州制の導入に力を入れているが、ＪＮ協会の支部は都道府県の枠組みを越えたブロック制になっているため、こうした行政面での変化にも素早く対応することが可能である。東京の本部と10支部を結んだ多面的なＮＰＯ活動の方策を検討したい。

5月総会で19年度の事業計画決める

また、３月には当協会の理事会を開き、５月に予定されている定時会員総会へ提案する平成19年度事業計画や予算案を審議する。定時総会は東京都内で開き、事業計画や予算案の承認を求める。

記念講演会は、金沢の郷土発展振興会とも協力して東京都の石原慎太郎知事を講師にお招きし、2016年の夏季オリンピックの東京誘致問題などをお話していただくよう、準備を進めている。

このほか、11月には第３回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラムin札幌）を開催し、名古屋、高岡でもイベントを予定している。

（ＪＮ協会事務局長　白澤照雄）

横浜市で初のフォーラム開く
郷土発展振興会も、同じ場所で

ＪＮ協会は、2006年11月28日、横浜市で『国際港湾都市ココハマの魅力を探ろう』と題して、「観光立国フォーラムin 横浜」を同市の横浜ロイヤルパークホテルで開催した。11月9日の札幌市での講演会に続き、横浜市では初の試み。

同日、ＪＮ協会のフォーラムに先立ち、郷土発展振興会も講演会を開いた。延べ400人が参加。二つの講演会の内容は、3面に掲載している。

2006年を振り返り、2007年の更なる活動を期す

誕生5周年の2006年、ＪＡＰＡＮ ＮＯＷ観光情報協会は、四国支部設立、5回の講演会、８回の「観光立国セミナー」、リニアモーターカー試乗会など、多彩な活動を展開できた。

理事長を先頭に会員増強に勤めた結果、団体会員は130を超え、個人会員も300人を突破、組織として財政基盤も安定化した。

【支部設立】

4月14日に四国支部（高松市、梅原利之支部長）が全国8番目の誕生。2007年は東北、中国地方での設立を目指し、全国ネットワークの完成を期する。

四国支部設立総会に集まった人々。左は梅原支部長

【講演会活動】

四国支部設立に合わせて実施した『大四国圏の活性化と将来展望』（観光立国フォーラムin高松）を皮切りに、5月19日には定時会員総会にあわせ東京で開いた『地球規模の観光大交流時代ですよ』。講師は、岩村敬氏（国交省顧問）ら２人。

7月14日には金沢市で『魅力溢れる大中部圏の現状と将来』。講師は須田寛・元ＪＲ東海会長ら。金沢市では2度目のフォーラムだったが、北陸支部を支える「郷土発展振興会」（加藤会長）が中心に翌15日には「かほく市」でも講演会。

11月9日には、2005年に続き第2回『21世紀は大北海道圏の時代』に350人が参加。講師は、国土交通省の鈴木航空局長、農林中金総合研究所の大多和社長ら。

11月28日に、横浜市初のフォーラムを開いた。会場は横浜ロイヤルパークホテルで『国際港湾都市・ヨコハマの魅力を探ろう』（観光立国フォーラムin横浜）、講師に国土交通省の中尾港湾局長、柴田観光政策審議官、村岡・日中友好協会理事長。

これに先立ちJN協会が後援した『食・心・動の三育によるまちおこし』（郷土発展振興会主催）が行われた（横浜での講演会の模様は3面で紹介）。

【見学会】

3回目の試みとなる『リニア・モーターカー試乗会』は大人気で、山梨県都留市の実験線には30人が参加。希望者多数のため、お断りするケースが続出した。お詫び申し上げると同時に、今年も計画することを約したい。

【懇談会】

代々木の事務局で、毎月第三金曜日夕方からアルコール入りの放談・懇談会を実施した。毎回10数人が参加し、事務局はマンパイ状態が続いている。

【研究会】（昼食会セミナー）

2002年の『観光の価値・評価』、2003～2004年の『旅と危機管理』に続き、2005年から『観光立国セミナー』（いずれも、資料として詳録を保存してあるので、興味のある方は事務局まで）。

2006年の実績は、次の通り。

第11回（1月 12日）**新井佼一国際観光振興機構 理事**
テーマ「ビジット・ジャパン・キャンペーンの展開」

第12回（6月13日）**古谷雅年**日立製作所ソリューション統括本部部長代理
テーマ「テレビ電話を利用した遠隔通訳サービスおよび電子ペーパーについて」

第13回（7月11日）**倉田保緒**日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティー
テーマ「40周年を迎えたスパリゾート・ハワイアンズ」

第14回（9月12日）**篠原靖**東武トラベル企画仕入部副部長
テーマ「東武鉄道グループの観光戦略」

第15回（10月10日）**丹羽晟**日本空港ビルデング相談役 、ＪＮ協会前理事長
テーマ「江戸城再建」

第16回（11月21日）**岸朝子**（料理記者：テレビ番組「料理の鉄人」審査員）
テーマ「食と観光」（世界の中の日本食）

第17回（12月12日）**谷口せい子**国際観光振興機構国内サービス部次長
テーマ「香港・広東省の訪日市場概況」

【ＪＮ情報紙発行とホームページ】

情報紙は, 2006年1月25日号（右の表紙）を皮切りに、総会、支部での講演会で配布する臨時号をふくめ、10回制作した。ホームページは、会員の異動やシンポジウム、ＪＮ紙発行の度に更新している。Http://www. japannow. org

JN協会の平成18年度上期（4～9月）決算 ： 単位千円

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,596	講演会費	1,854
講演会収入	1,277	JN紙発行費	538
個人会員会費	846	研究会費	227
団体会員会費	3,889	交通費	905
その他	3	賃借料	806
計	7,611	通信費	342
		ＩＴ 費	44
		その他	336
〔下期繰越	2,559〕	計	5,052

横浜市で初のシンポジウム、ＪＮ協会と郷土発展振興会の合同で

国土交通省の中尾・港湾局長、日中友好協会の村岡理事長らが講演

2006年、ＪＮ協会の最終イベントとなった横浜市でのシンポジウムは、『国際港湾都市・ヨコハマの魅力を探ろう』と題して、横浜ロイヤルパークホテルで開かれた。これに先立ち、同じ場所で「郷土発展振興会・横浜支部」主催（ＪＮ協会後援）のシンポジウム『食・心・動の三育による町おこし』があり、合わせて延べ400人が参加、横浜市での初の催しは盛況だった。

クルーズ拡大で外国人誘致を！

国土交通省港湾局長　中尾成邦氏

海運は、昔は交通の主要手段だった。「港」と言う字を分解すると、「サンズイ」（水）と「巷」（街）となる。人と物資が集まり、大都市になっていく。2004年のスーパー中枢港湾指定も手伝って、横浜市は今は物流面で日本第二となっている。

横浜を訪れる観光客は年間4000万人に上るが、1989年の横浜博覧会の開催、「みなとみらい21」の形成と2004年の地下鉄・みなとみらい線開通などが、観光客誘致に効があった。これからは、開港150周年を記念しての『象の鼻地区』の整備・開発と東京湾岸地域との連携が課題となる。

外国人観光客の誘致と言う観点でみると、豪華客船クルーズがポイントの一つ。横浜港へのクルーズ寄港は、2001年の53回から、今年は143回となる見通し、しかし外国籍の船は13回にしか過ぎない。これを増やし、東南アジアからの集客を目指したい。

国際会議をもっと誘致しよう

国土交通省総合観光政策審議官　柴田耕介氏

日本の国際観光は、出国1740万人、入国673万人（2005年）と、アンバランス。これを是正するため2010年に外国人観光客を1000万人に増やす目標を立てている。それには年率8.2%の増加が必要で、いま追いまくられているのが実情。

横浜は歴史のある港町だが、外国のガイドブックなどには、横浜の記述が少ない。外国のクルーズ寄港港をもっと増やす必要があり、『ジャパン・クルーズ･シンポジウムｉｎヨコハマ』を開催し、海外からクルーズ関係者を招くなどして、ＰＲに努めた。

国際会議を開催することも必要。2004年の実績で見ると、世界一はパリの221件。アジアではシンガポール（5位）、ソウル（10位）などに比べ横浜は24件で65位。梃入れが肝要だ。

太極拳で日中友好を更に促進

日本武術太極拳連盟副会長、
日中友好協会理事長　村岡久平氏

国交回復前の日中関係は政治的に厳に厳しい状況にあった。そんな中で、横浜市は卓球やサッカー、アジア武術連盟の結成などで、スポーツ交流の先鞭をつけ、民間外交を行った。2007年は、日中国交正常化35周年。「日中文化・スポーツ交流年」として大いに交流を進めたい。

安倍首相就任直後の中国訪問，2006年11月18日ハノイで「日中往来を500万人の大台に乗せる」ことで合意した。現在の400万人強（訪日65万人、訪中340万人）から大幅アップであり、ビジット・ジャパン・キャンペーンのなかでも、私はとくに中国に呼びかけ、横浜の魅力をアピールしたい。

在日の中国人が、在日韓国人を抜いて1位になった。さらに2008年の北京オリンンピックがある。対日感情悪化も、このところ好転してきた。

私は中国との付き合いで3つのことが大きな意味を持つと思っている。マージャン、書道、太極拳。中でも太極拳は北京オリンピックの開会式での集団演武を提案している。2007年春には決まるだろう。

「食・心・動の三育によるまちおこし」　郷土発展振興会が主催

ＪＮ協会のシンポジウムに先立ち、11月28日午後1時から『食・心・動三育によるまちおこし』シンポが開かれた。㈱ウィルサーチの若山祥夫社長が「食育」、医療法人仁智会の北中勇理事長が「心育」、全日本運動療法士協会連合会の加藤愛恵会長が「動育」、それぞれについて町おこしとの関連を語った。

若山社長は「しっかりとした食を摂れば、免疫力がアップし健康が保てる。そうした人たちが生き生きと活動することで、町おこしにつながる」と述べた。

金沢から駆けつけた北中理事長は、介護センターを経営している経験を踏まえ「介護センターを姥捨て山にしてはいけない。お年寄りが健康を保ち、その豊富な人生経験でコミュニケーションを盛んにすれば“介護門前町”ができ、それが町おこしにつながる」と、“老健による町おこし”を訴えた。

加藤会長は「子どもを健康に育てるためには、まず女性が自分で実践し、その姿を子どもに見せる必要がある。また老人を、寝込ませない、ボケさせないためにも、運動が不可欠。運動療法士の国家試験も5年以内に実現するよう全国に支部を作って動いている。その支部メンバーが、郷土発展振興会にも入り、町おこしを進めている」と話した。

東　京
霞が関発の最新情報
国土交通省・総務省・財務省

観光立国推進基本法、1月1日から施行

観光立国を進めるうえでの基本法である「観光立国推進基本法」が06年12月13日に参院本会議で成立し、07年１月１日から施行された。43年前の1963年に作られた「観光基本法」を全面的に改正した。

基本理念は４つからなり「豊な国民生活の実現に特に重要」「国際的視野が必要」「国民観光旅行の促進が重要」「国、地方公共団体、事業者、住民などの相互の連携確保が必要」とうたっている。このために観光客の数値目標や具体的な施策を定めた基本計画を政府が作ることを決めた。

この他に観光産業の国際競争力の強化、観光統計の整備など規定の整備を挙げている。国交省観光部はこの法律に基づき、基本計画の策定に入った。

新幹線４ルート整備に706億円を計上
超電導型リニア開発では７億７千万円

国土交通省が昨年12月20日に発表した平成19年度予算によると、整備新幹線関係では４ルートの整備事業として前年度と同額の合計706億円を計上した。

４ルートは北海道新幹線（新青森から新函館）、東北新幹線（八戸から新青森）、北陸新幹線（長野から金沢）、九州新幹線（博多から新八代）となっている。ＪＲ東海が山梨リニア実験線で進めている超電導型リニアモーターカーの技術開発として６億７千万円、高温超電導磁石の高度化に１億円を予算化した。

また羽田の再拡張事業として1636億円を計上し、４本目の滑走路、連絡誘導路などを整備。東京都と千葉県は新滑走路の環境問題について影響は少ないとの判断を示したが、千葉県の漁業組合が反対の立場にあるため着工は予定より遅れる見通しである。

外国人の訪日促進や観光産業の創出を図る観光立国関係予算は前年度と同額の40億円となった。

地域観光創造センターを設立
千葉大学が2006年12月に

千葉大学のホームページによると、同大は「地域観光創造センター」を昨年12月20日付けで設立。地域に密着した新しい観光モデル（サスティナブル・ツーリズム）の開発や、これからの観光を担う人材の育成と地域社会と連携した魅力ある地域づくりの実践に取り組むのが狙い。

地域・自治体・企業からの提案や相談を歓迎するとアナウンスしている。2007年度文部科学省予算案で「地域資源を活用した観光創出のための連携融合事業」（特別教育研究経費）として認められた。

日本の文化を守るために
旅館はつぶせない
藤野公孝参院議員

自民党の観光特別委員会にある観光政策強化小委員会の藤野公孝委員長（写真＝参院議員）は国土交通省の観光部の予算を増やしたり、観光省の設置について働きかけている。

この藤野委員長は「今やるべきことは産業の強化とともに旅館に対する融資をすることである。日本の旅館は競争力がなくて負け組みになり、崩壊寸前である。日本の旅館は文化である。文化を守る為にも何とか融資を続けるように商工中金や中小企業金融公庫などに働きかけている」と話している。藤野氏によると日本の文化は旅館にしかない、とまで言う。

さらに旅館は地域経済の下支えをしており、潰れると地域経済に大きな影響を及ぼすと、心配している。藤野氏は自民党の観光立国推進基本法の検討部会の座長も務め今年1月からの施行にこぎつけた。

運輸省時代は観光部長を務めていただけにこうした法改正などはお手の物である。

07年の海外旅行、最高の1790万人に

ＪＴＢは07年の海外旅行者は、06年からの1･4%増え1790万人と米国同時多発テロ発生前の2000年に記録した過去最多の1782万人を超える見通し、と発表した。アジアを中心としたビジネス需要が増えるほか、団塊世代の大量定年などで観光需要が増加するとしている。一方、訪日外国人数も6･2%の770万人と過去最高になる見通し。

06年は訪日外国人が800万人突破

法務省が調べた2006年の外国人入国者は、前の年に比べ8.8%増え延べ810万7684人となった。国別では、韓国236万人、台湾135万人、中国本土から98万人。中国からの訪日者は前年比25%の大幅増。

一方、日本人の出国者は1758万5053人。

国土交通省が成田空港の北伸を許可

国土交通省は「成田国際空港会社」（黒野匡彦社長）から出ていた暫定平行滑走路（2180㍍）を伸ばして2500㍍にする北伸について許可した。滑走路が延びることで発着回数が現在より２万回増えて22万回になる。供用開始は2010年３月の予定。

台湾が中国人に観光で全面開放に

中国人が台湾に自由に行き、観光が出来るようになった。台湾は2002年から中国大陸の観光客を条件付の部分開放をした。これを全面的に開放するもので、中国人で台湾に観光旅行したい人は５千万人いるといわれ、ビジネスとしても魅力がある。

観・光・人・国・記

もっと宝を、と特産品を育てる
「自然の恵みを活かして」と佐々木市長

佐々木誠造氏。1956年、早大理工学部卒。青森三菱自動車社長、青森商工会議所副会頭等を経て、1989年青森市長に。2005年、浪岡町との合併で生まれた30万都市・青森市長に。

「観光通り」という名がついた幹線道路が、青森市役所の近くを通っている。全国的にも珍しい正面切った名称である。佐々木誠造市長に謂れを聞くと**「それが、いつ誰が付けたかはっきりしないのですよ」**との答え。

ざっと20年前、市長になる前の佐々木さんは、青森商工会議所の副会頭で、観光客誘致協議会の会長でもあった。**「そのときには、もう名前がついていた」**という佐々木さんは、この道路の話から、青森の良さの全面ＰＲに入る。

「この道路は国道103号線ですが、八甲田山、十和田湖という超一級の観光地へのアクセス道路なので観光通りの名が付けられたのでしょう」。

「青森の水道水は日本一美味い、と厚生省の関係機関からお墨付きをもらっていますが、これもブナ林を持つ八甲田山系に積もった雪の伏流水のおかげです」

「青森市は県庁所在地としては唯一の特別豪雪地帯に指定されていますが、その雪解け水が陸奥湾に流れ込みます。陸奥湾は入り口が狭い閉鎖水系ですが、日本海と太平洋を結ぶ津軽海峡ともつながっているので、魚種は多く海の幸に恵まれています」。

「なかでもホタテ貝の養殖は大きな産業です」。

「そこで、私は考えました。ホタテ養殖に使った餌が、海底にヘドロ状に溜まります。これは、ナマコの餌になり海底浄化にもなりはしないかと。1994年、水産庁とも相談してナマコの増殖に踏み切りました。いまや、丸々太ったナマコがゴロゴロ。東アジアのナマコブームで、いまや大きな出荷額（05年で188トン、2億1200万円）を生み出しています」。大変なアイディアであり、すばらしい実行力。この一連の話の流れに、感心した。

浪岡町と合併して名実ともにリンゴの街となった話、カシス栽培が本格化したこと、薬草園を作った経緯、棟方志功、淡谷のり子さんら青森が生んだ人々のこと、三内丸山遺跡に代表されるように縄文時代は青森が日本の中心地だったとの指摘。

「自分たちがいつまでも住んでいたい街を作る、それが観光客を招く秘訣だ」と、いつも市民に語りかけているという。まさに至言である。話は尽きない。最後に、新幹線と当面の課題を聞いた。

「新幹線の青森延伸は、何十年もの悲願。3年半後の開通を目指して、準備に大わらわの毎日です」

「来るぞ新幹線、生かすぞチャンス」をキャッチフレーズに、新幹線効果を観光客誘致に結びつけるため、大作戦を展開している、という。立ち上がろうとすると**「もう一つ。カーリング娘は青森の誇りです。2007年３月には、世界選手権が青森市で開かれます。世界のひとびとに、青森を知ってもらう絶好の機会」**と念を押す。（加納）

津軽三味線と女将の民謡で繁盛
料理も抜群、全国からファンが集う

力強い津軽三味線の調べに乗った張りのある美声―その持ち主は、青森市本町にある『りんご茶屋』の女将・長谷川勝枝さんである。

6時過ぎに始めたインタビューの途中、次々とお客が入ってきた。若い女性たち、旅行客らしい連れ、土地っ子も混じっているのか、カウンターも座敷も、アッという間に満席になる。8時ごろから約40分にわたって行われる「津軽三味線と民謡の夕べ」お目当てのよう。三味は、大会で優勝した娘さんと九州から来ているというお弟子さんが受け持ち、勝枝女将は青森5大民謡など数曲を披露してくれる。

還暦を迎える女将の半生は、津軽三味線と民謡一筋。子どものころから、父の三味線、母の民謡を中心に編成された一座に加わり、地元から北海道一円にかけ年中旅回りだったという。そしてざっと30年前、今の民謡酒場を開業した。ミス青森といえそうな美形なので、旅の雑誌で紹介されたり、旅行会社のパンフレットの表紙を飾ったりした。そんな雑誌などを持参して、全国からお客や弟子入り志望者が集まってくるようになった、という。

さて、この店のもう一つの売りは、料理。安くて美味しいというのが、案内してくれた平田公成・青森市観光課長の言。なるほど、「貝焼きみそ」（ホタテの殻を鍋代わりにしたみそ仕立て料理）や「じゃっぱ汁」（真ダラの骨まで何でも使う鍋料理、じゃっぱとは残飯の意味で、もとは家庭料理）は、海の幸に恵まれた青森ならではの味だった。

「三味と民謡はサービスです」と勝枝女将。だが酒場の喧騒も演奏が始まると劇場の静かさに一変、杯も箸も、一休みしてしまう。「これじゃあ、売り上げに響くのでは」と余計な心配をしてしまった。

趣味は？と聞くと「日本舞踊です」と勝枝さん。坂東流の名取で、坂東菊弥の名刺も持つ。もう趣味の域を超えているのではなかろうか。ますますのご繁盛とご活躍を祈りたい。（加納）

青森市本町二丁目４－２『りんご茶屋』
(017－776－7402)

2007年がスタートしました。遅ればせながら、謹賀新年！

観国之光　利用賓于王

顧問　丹羽　晟（初代理事長）

題名の漢文は、次のように読む。

「国の光を観すは、もって王に賓たるに利し」。

この言葉は、紀元前の中国に存在した「周」の時代に書かれた古典「易経」の中にある。現在、私達が日常使っている言葉「観光（TOURISM）」の語源である。

この句の意味は、「一国の王たる者は、賓客に対しては、その国のすばらしく見事なもの（国の光）を示して、お持て成しをするのがよろしい」ということだったそうである。この場合「観」の字は「しめす」意味であるが、この字には「みる」という意味もあるので、いまは専ら「みる」と読んでいる。「国の光」を示された者にとっては、それを見ることになるので、表裏一体となっているのだろう。

150年程前、徳川幕府の第13代将軍家定の時に、オランダ国王からわが国に軍艦が一隻贈られて来たが、幕府はこれを「観光丸」と命名して、長崎の海軍伝習所に配置した。軍艦だから、内外に国威（国の光）を示す意味で付けた名前であろう。この軍艦を復元した船がハウス・テンボスにあり、大村湾の観光クルーザーとして利用されているのも面白い。

「歓光」が、本来いかに格調の高い仕事であるかを改めて考えさせる語源である。私たち観光関係者は平和国家日本の「国の光」は何であるかをよく考え、これをしっかりと作り上げて内外に示していくことが観光立国の基本であると思う。

国連でも「TOURISM、PASSPORT TO PEACE（観光は平和へのパスポート）」と言っている。

夕張にご支援を！

北海道支部長　坂本　眞一

2006年の北海道は、多くの明るいニュースで道民に元気をいただきました。とくに観光の面では、05年の世界自然遺産登録による「知床」、海外からも注目の旭川市の「旭山動物園」が賑わいました。さらに6月からの「北海道ディスティネーションキャンペーン」（はなびた北海道）で全国から沢山の観光客に、北海道を楽しんでいただきました。また、夏の甲子園での駒大苫小牧高校の健闘、秋には日本ハムファイターズのリーグ・日本シリーズ・アジアリーグ制覇、道産米「おぼろづき」が日本一のおいしい米と、久々に北海道が注目を浴びました。

しかし、新庄選手の引退、有馬記念を制したディープインパクトが第一線を退くなど寂しい面もありました。こうした中、かつて日本経済の復興に大きな役割を果たした「夕張の炭鉱」が、石炭から石油へのエネルギー転換後の新しい夕張を目指し、「炭鉱の遺産」を活かして観光に取り組んできました。しかし夕張市は、長引く不況等で07年４月より「財政再建団体」に追い込まれることになりました。これまでも「夕張国際映画祭」など、吉永小百合さんをはじめ多くの方々から映画祭の開催、観光施設の維持等への応援の声をうけ「夕張応援団」を立ち上げ、まちの再建を支援する取り組みをしています。観光的にも貴重な「夕張の歴史村」、「夕張鹿鳴館」、ロケセット「希望の杜」などの貴重な産業遺産を多くの応援団の力により再生に向け関係者とともに支援してまいります。皆様の支援をお願いします。

「古稀」を迎えて　―多くの出会いに感謝―

松尾道彦・理事長

本年は、私個人にとって、人生のひとつの節目を迎えます。「古稀」の年齢。馬齢を重ねながら。これまで多くの人の支えをいただいて、心身ともに健康で過ごせてこられたことに、心から有り難く思うこの頃です。日本人の寿命は、世界最長といわれ、今や65歳以上の老齢人口（「老齢」に、ちょっと抵抗を感じますが）は、5人に1人の割合となり、いわゆる少子高齢化時代を迎えて、いろいろな社会経済問題が提起されています。人の一生は、リハーサルなしの本番だけです。生命は有限で、誰しも必ず終日を迎えます。いただいた貴重な生命を大切に守り、世のため、人のために役立てることがいかに重要か、特に若い方々にしっかりと認識してもらいたいものです。

振り返ってみますと、40歳の時は、成田空港の開港に支障となっていた滑走路南側の妨害鉄塔が撤去され、53年5月に開港が実現しました。50歳の時は、羽田空港沖合展開事業が進み63年7月に新Ａ滑走路が供用され、還暦を迎えた際には当時の日本エアシステムに採用いただく等、それぞれの節目に思い出に残る体験にめぐり合わせてもらっています。この70年の間に多くの人と出会い、温かい支えをいただき、人との縁（えにし）を深めてゆくことができ、心からの感謝、感謝です。

今は、自分の分をわきまえ、八分目、ほどほど、お互いさまの気持ちで、ＪＮ協会を通じて、幅広い各界、各層の方々と観光問題を語り合いながら、明かるい楽しい日々を送らせていただく仕合わせ感をいだきつつ、今できることに力を尽くして参りたいと思っています。

私たちの“ご挨拶”です。今年もご支援を、お願いします！

「観光立国」をテーマ別観光で

副理事長　須田　寛

政府はいま、国をあげて観光立国政策を推進し、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」に取り組んでいる。観光立国を成功させるためには秀れた観光資源を開発することが、そのカギを握る。しかし国内の観光資源の開発が進み。環境との調和をはかりながら新資源を発掘する余地は限られてきている。

そこで観光資源を再編成する、即ち見方をかえることによって新観光資源の開発と同じ効果をもたらすことができないかと考えた結果が、テーマ別観光の提案となった。例えば「産業」と言うテーマで、これまでの観光資源をいわば輪切りにして視点をかえて見直してみることである。即ち、寺院等の建築物を見る場合も従来の歴史的視点から見る場合、その沿革由緒等が関心事となったが、「産業」という視点から見た場合は産業生産物としての建築物であるから、建築様式、材質、構造等から観光客がその対象を見ていくことになる。それによって同じ寺院という観光資源も違った角度から見えてくる筈である。このように「産業」にかかわる他の観光資源を産業という角度から横並びで見る時、新しい観光分野が観光客の前にひらけてくるように思われる。

このように既存の観光資源の見方をかえることによって、資源を多様化していくことが「観光立国」の基盤づくりにつながると思う。他にも「街道」、「都市」様々なテーマが考えられる。又観光客それぞれが独自のテーマ意識を持った観光行動をとることによっても、より幅のある有意義な観光が実現するのではなかろうか。

須田氏に第51回交通文化賞

ＪＮ協会副理事長

ＪＮ協会の副理事長を務める須田寛・元東海旅客鉄道会長が、2006年12月18日、第51回交通文化賞を受賞した。この賞は、公的活動、学術研究、技術開発などを通じて、交通文化の向上に著しく貢献した人に贈られる、権威ある賞。

今回の受賞者は、須田氏のほかは杉山武彦（一橋大学学長）、中村庸夫【海洋写真家）の各氏。

須田氏の受賞理由（功績）の概要は、「新たな視点で『観光』を捉え、その結果、新たな観光分野として『産業観光』を普及発展させ、各地の観光振興のモデルケースとして国内観光の活性化に寄与した」というもの。

上の欄に、須田氏の観光にかける情熱があらわれた「テーマ別観光」への提言を掲載しているので、ご一読ください。

名画の故郷を訪ねて

副理事長　横山　善太

観光立国のご参考にでもなればと思い、欧州名画の故郷を訪ねた話をご紹介します。

映画は、英国の名匠デビット・リーンの出世作「逢いびき」（1945年作品、主演トレバー・ハワード）です。イギリスの退屈なれどエスタブリッシュされた中流家庭に不倫の一石が投じられ、水面に波が立つこととなっても、また静かな水面に戻る情景。リアリティと日常性が不思議と物語の情感を伝えることとなっている名作です。

舞台はランカスター近郊の小都カーンフォースという街の駅が現場。鉄道員ＯＢなるチョビ髭の大男がブルーのトックリセーター姿なんぞで、大仰に愛想良く出迎えてくれました。

実は最近、日本の方々が「逢いびき」の故郷ということでお訪ねになることが多いこともあり、ロンドンの古物商に売り払った駅時計を買い戻してきたなどの解説を聞いたあと、「逢いびき」のフィルムを見ながら、記念写真を撮ろうとすると、「いや、そうではない。あの時トレバー・ハワードがコートをひるがえして、ホームの階段を駆け登り時計を見る場面があるではないか」とそのポーズをとらされたり、駅レストランのカウンターでビターを飲みながらイングリッシュネスの情感に身を置く心地よい想いでありました。静かな観光は好いものです。

観光立国で地方活性化を！

四国支部長　梅原 利之

「観光は21世紀の基幹産業」と小泉前首相が観光立国宣言をして以来、各地で官民挙げての観光振興に火がつきました。半世紀にわたるハード重視ソフト軽視という国の大方針が大きく転換した歴史的なエポックと言えましょう。ですが、かなり前から国を挙げて取り組んでいる諸外国を見ると、日本はまだ“観光後進国”と言わざるを得ません。

そもそも観光は消費の裾野が広く、労働集約型産業なので、雇用拡大にもつながり、かつ地場産業そのものなのです。地方の時代と言われて久しいのですが、実際に東京など大都市が肥大化し、地方が疲弊している現状を考える時、観光こそ地方活性化の切り札といえましょう。“いざなぎ景気”を越えたといわれますが、地方では実感が湧きません。

わが国の景気回復は、膨大な金融資産を持っている個人の消費が活発になってこそ本物と言えるのでしょう。そのためにも、観光の役割は大変大きいのです。ようやく火がついた観光振興への情熱をさまさないよう頑張っていきたいものです。

海外から見た日本は？

観光立国推進のヒントにと

ｸｰﾘｴ･ｼﾞｬﾎﾟﾝの古賀編集長

「世界の国々が日本をどう見ているかを、知ることが観光立国につながる」－2007年1月16日、ＪＮ協会が開いた『第19回観光立国セミナー』で、講師の古賀義章クーリエ･ジャポン編集長が語った。

古賀氏は、2004年12月から現職にあり、自身世界30カ国を訪れている。講演の概要は、次の通り（詳細な内容は、改めて作成しＪＮ協会事務局に保存、閲覧に供する）。

世界のメディアから記事を紹介

クーリエ・ジャポンは、世界の14言語、平均200のメディアから探した日本に関する記事を紹介する月2回発行の雑誌。「世界が見たＮＩＰＰＯＮ」をキャッチフレーズに、スタッフが膨大な新聞、雑誌等を対象に連日、記事を読み続けています。

そうした作業、雑誌作りの中で、感じたことを述べますと、世界の目は一般的な日本人が考えているのとは違う、ということです。「日本は、エレクトロニクス、自動車に代表されるような製造業大国」と海外は見ている、と思われるでしょう。確かに、そんな時期もありました。しかし、最近目立つのは「マンガ、コスプレ、アート」に関した記事です。

観光立国の新しい目玉がある

ドイツのシュルテンという雑誌は「ＴＯＫＹＯの流行は、必ず世界に波及する」とまで書いていました。香港のメディアは、秋葉原の『メイド喫茶』を大々的に紹介しました。電機器具のメッカとしてではありません。海外のメディアは、こうした日本国内の動きを、新しい潮流であり文化である、と捉えているのです。

「日本の物価は高い」と言われ、海外観光客誘致の障壁になっているという話があります。この点に関して、ワシントンポストの記者が「1000ドルで一週間日本を楽しむ方法」という記事を書きました。浅草へ行き築地を探訪し、歌舞伎を楽しむ、そして宿泊はカプセルホテル､といったような内容です。日本の温泉特集も、よく出てきます。

いま映画大国になったインドに、ハリウッドをもじった“ボリウッド”というところがあります。韓国などは、ボリウッド製映画のロケ地に韓国を選んでもらおうと、盛んに働きかけています。

日本の政府も観光関係者にも、旧態依然とした名所･旧跡めぐりばかりではなく、先に述べたような新しい芽を活かす、観光立国の新しい視点が必要なのではないでしょうか。

日本食と築地市場の休日

昨年、超安売りチケットで20年ぶりに香港を訪れた。香港島の高級そうな食品スーパーに行くと、日本の食材が溢れていた。納豆は10種類以上置かれていたし、日本酒も久保田の萬寿・千寿はもちろん、碧寿だの紅寿だの見慣れぬものもあった。

我国の平均寿命が82歳。男は79歳で、サンマリノ・アイスランドと世界一を争い、女86歳は単独世界一だという。これが続けば日本食は健康食品の最右翼として、観光に先行し、世界に持て囃される事になるであろう。

2003年、ＪＮ協会の「観光の価値・評価の研究」セミナーで、澤田理事が報告された「Frommer’s Japan」（第６版）のstar ratingで、東京の観光施設で最上級の三ツ星にランクされた観光スポットは浅草寺・東京国立博物館・江戸東京博物館・東京都庁舎・Tokyo Disneylandと築地魚市場であった。日本食の供給源としての築地は益々注目を集めることになろう。

思えば世界各都市には食料品の市場があり、最も生活に密着した風情を醸し出している。40年余り前に泊まった台湾・嘉義のホテルでは、日の出とともに鶏の鳴き声を聞いたが、隣の市場からのものであった。まだ冷蔵設備が整っていなかった当時の台湾・食料品市場では、鶏は新鮮さを失わないため生きたまま売られていたのだろうか。

１月17日水曜日、築地市場の場内の食堂に牡蠣フライを食べに行った。昨年も行き、潮の香りがする牡蠣フライが忘れられずまた訪れたのである。ところが１、２軒寿司屋が営業していたが、市場は休みであった。はるばる行って休みでは悔しいので、築地市場の休日について報告させて頂く。

今年のダイアリーをお手元に。

１．日曜日
　年末は開市日となる場合がある。今年の12月30日は開市日。

２．祝日（含振替休日）
　５月４日は開市日。

３．第２・４水曜日
　８月８日は開市日。

第２・４週に振替休日がある場合は、その週の水曜日は休まず翌週の水曜日となる。２月12日（月）は振り休で休み。14日(水)は開市日となり、２月21日第３水曜日が休みとなる。

４．その他
　①　１月１・２・３・４日は休みだった。
　②　８月は、８日を休まない替わりに15～17日と22日が休み。
　③　12月は、24・30日が開市日になるほか26日も開市日。

（杉　行夫）

観光地めぐりに有力な乗り物！

道路と線路を自在乗り入れの、DMVに試乗

「バスが線路を走る」－そんな世界初のＤＭＶ（デュアル・モード・ビークル）。2006年12月1日、北海道観光連盟主催の試乗会に、私はＪＮ協会の松尾理事長の代理で参加した。

DMV試乗に参加した北海道観光連盟の我孫子会長ら一行。背景は、試験走行の車体。（JR北海道苗穂工場）

このシステムはＪＲ北海道が1999年から開発をはじめ、2004年1月に発表した。バスがレールに乗り入れる走る時には、バスの車体に格納していた車輪が下りてくる仕組み（右の概念図参照）。すでに4000回テストを繰り返し、昨年11月には導入を決めている静岡県富士市で試験走行が行われ、マスコミを賑わせた。そして今年4月にはＪＲ釧網線の浜小清水―藻琴駅間で試験運行することになっている。この“道産技術”には、全国から問い合わせが相次いでいるが、韓国やイギリスはじめ多くの外国からも関心が寄せられている、という。

このシステムのメリットは、車両費が安く燃料費も節約できるところ。一方で、解決しなくてはならない問題点も残る。一つは車体重量の関係で、今はマイクロバスでしか対応できず、乗客も13人が定員。バスの運転手と電車の運転士が揃って乗る必要がある。

ＪＲ北海道では、将来は運転手1人乗務、乗客も25人を目標にしている、という。

いまや途切れ途切れになりかかっている鉄道を再びつなぐシステムとしても有効だし、市街地や郊外にある観光地をバスで回って線路に乗り、一気に出発駅に戻ることができることから観光地めぐりの乗り物としても将来性がありそう。

（ＪＮ協会参与・山内徳治）

手前からバスが入ってガイドローラー（車輪）を下ろし、前方のレールに乗る。

羽田空港の再拡張は、どうなる？

日経新聞が1月13日朝刊で「羽田空港の再拡張は2009年末完成に黄信号」と伝えた。

要旨は「千葉県内の漁業者との補償交渉にメドが立っていない。06年春着工予定だったが、現在も動いていない。このままだと、09年完成は難しい」という記事。

羽田空港は現在、主として国内線に使われているが、マンパイ状態で、4本目の滑走路が計画され02年に閣議決定されている。成田空港の拡張とあわせて、飛躍的に発着数を増やすことができ、羽田からのアジア近隣諸国との路線も増便が可能となるはず。観光立国をうたい2010年、1000万人誘客を目論んでいる政府としても、とくに中国、韓国はじめアジアからの客を大幅に増やしたい。

その切り札のひとつが、羽田プロジェクト。国土交通省は「まだ、計画変更とは言っていない。工期短縮策なども含め、なんとか目標達成を目指したい」と言ってはいるのだが。　（K）

COLUMN

干支・猪のおもいで

今年の干支は「ゐのしし」の出番となった。この‘猪’は猪突猛進といわれて殊のほか元気がいいように言われているが、実際には臆病な野生動物だそうである。

中学生のころ京都市内の自宅付近の山中で手負いの猪に襲われたことがある。ある冬の昼下がり、遊び友だちと「めじろ」を獲ろうと、いまは禁止されているカスミ網を仕掛けていたとき、突然「バーン！」という鉄砲の音に慌てて藪から農道へ走り出た。その途端、真正面から猪がよろめきながらわれわれ二人に向かってきた。「逃げや！」友の声にきびすを返し、すぐ左の傾斜地へよじ登ったところ、何とその猪は猪突猛進どころか、方向転換してわれわれの後を登りだしてきたのである。これにはぶったまげた。必死になって上を目指したが、しばらくして鉄砲を担いだ猟師が2～3人、「あっちやぁ～」と叫び声をあげながらどたどたと追ってきた気配に、猪は後ずさりして農道へ降り、そのまま逃げ去った。後には赤黒い血が点々と滴っていて手負いだったことが分ったが、子ども心に腰も抜かさんばかりに仰天した。

終戦直後近所に猪の仲間である、豚を飼育している農家が数軒あったが、いずれも汚く不潔で臭いというイメージしかなかった。それが、ケニアのツリートップホテル（エリザベス女王が旅行先のこの高級ホテルで父ジョージ六世の死を知った）のテラスから見下ろしたときには、眼下をうろついていた薄汚いイボ猪が高貴に見えたから不思議である。その後、アメリカで養豚場を見学したときは、豚も豚舎もあまりにもクリーンできれいなのにはびっくりした。オーナーに聞いてみると豚はきれい好きで、常に清潔にしていないと大きく成長しないと知ってまた驚かされたものである。猪と豚のイメージも随分変わった。そう言えば、ニューヨークにある国連本部ビルの地主は、大富豪コロンビア大学であるが、元は「豚の屠殺場」だったという。豚は死して国連ビルを残す、か・・・。（近藤）

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

ミンスクの台所

ベラルーシ家庭料理の店。ベラルーシは、どこにあるのか地図で示せる人は少ないと思う。首都はミンスク。面積は日本の約半分の小さな国で、チェルノブイリ原発事故の被災国として有名。ロシアの影響を強くうけているが、ロシア語ではなくてベラルーシ語を話す。

料理も勿論ベラルーシ料理でハーブとサワークリームが特徴である。「ミンスクの台所」は東京・飯倉片町交差点近くで麻布台小学校に隣接するマンション１階の30席ほどの隠れ家的な店で、木造の家具に家庭的な雰囲気である。

日本語が流暢なベラルーシ人の姉妹で、切り盛りしている。ランチは煮込み料理が中心のメイン３種と、そばの実をお米のように炊いたカーシャなどの付け合せ３種類からそれぞれ選び、スープ、サラダとドリンクがつく「ランチセット」1000円のみ。

デイナーは3000円台と5000円台の２種類あるがアラカルトも沢山ある。

鰊とビーツ（赤カブ）のサラダは「毛皮のコートを着たニシン」と名づけられて1260円。パプリカの肉詰めは、ボリューム満点で1365円である。面白いのはカーシャと呼ばれる蕎麦の実をお米のように炊いたもので肉料理のつけあわせなどに使われる。マチャンカは、豚肉のサワークリーム煮で1680円。港区麻布台１－４－２　電話は03－3586－6600
営業時間はランチ11：30－14：00、デイナーは17：30－23：00。日祝日は、夜のみ営業。年中無休。

（大島　愼子）

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいてきた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。

日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときとうつろい」と、現代の日本がいかにしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集を中心に構成されています。

1部2000円（送料別）で購入できます。 お問い合せは（株）ジャパン・ナウへ。 電話・FAX 03-3536-1751

道の駅・大滝温泉

埼玉県・秩父の山間にある道の駅「大滝温泉」。

施設「遊湯館」はドライブの疲れを癒しゆったりくつろぐためにあると言っても過言ではない。温泉はナトリウム・塩素・炭酸水素・メタホウ酸の各イオン成分の合計含有量は1kg中に5,892mgある高濃度の温泉。

四季折々の山並みが眺められ眼下には荒川の清流のせせらぎがあり、桧風呂、岩風呂でゆっくり湯を楽しめる。温泉の効能として、花粉症やアトピー性皮膚炎、各種関節症、疲労回復や美肌効果がある。

営業時間：**午前10時～午後8時。料金**は3時間以内で、中学生以上600円、小学生300円、乳幼児150円。館内にはお食事処「郷路館」があり、素朴な郷土料理も味わえる。近くの三峰神社の節分祭で用いるごもっとも棒をモチーフにした「ごもっともそば」は手打ちで美味しい。勿論、大滝の特産物、しいたけ・山菜・まぼろしの味手作りおなめ（なめみそ）も販売している。

営業時間は、お食事処：午前11時～午後4時30**分。売店：午前9時～午後5時。定休日毎週木曜日。**

関越自動車道花園I.C.より国道140号を利用して約50キロ。

お問い合わせ：電話（0494）55-0205

（堤　るり）

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員（1口5千円）、 団体会員（1口5万円）

東京都渋谷区代々木1－58－13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会（電話03－5304－9500）へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2007年3月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します（400～500文字程度）。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2007年3月25日。締め切りは3月15日。

2030年に原油の世界生産が頭打ち?

ピークオイル説は本当か 賛否両論

自給率ゼロの日本は原油の安定供給を

原油の世界の生産が近い将来ピークに達し、その後は採掘可能の原油埋蔵量が2030年代ごろ頭打ちになり、第３次オイルショックの要因となるというのが「オイルピーク説」である。

オイルピーク説には、賛否両論があって判断が難しい。専門家によると、世界最大の産油国サウジアラビアの生産はピークに近づき、北海油田も埋蔵量が少ないとの推計もあり、オイルピーク説の根拠となっている。新しい油井は稼働中の油田に比べ地中深く掘削しなければならず開発コストが大幅に増加し、原油値上げの要因となる。

ここ数年来、アメリカの原油市場での相場が高騰して１バレル当たり80ドル台を超えたのも、こうしたオイルピーク説によるとの見方がある。

これに対して石油が枯渇することはなく、世界の生産量は今後10年で20%増えるとオイルピーク説に懐疑的な意見もある。

日本は原油の自給率がゼロで、中近東などからの輸入で賄っているだけに、石油や天然ガスなどの分散輸入や原子力発電の増強による安定供給が必要である。経済産業省は、これまでの第一次、第二次オイルショックの教訓からこうした原油、天然ガスの分散輸入やサハリンでの新規油田確保に計画的に取り組んでいる。

また、日本、アメリカ、欧州などではガソリン価格の高騰や航空運賃の値上げで観光客の移動にも影響が出ているが、国土交通省は年明け後のジット燃料の安定化を図る方針。 （白澤）

「団塊」世代の争奪戦

各県が体験ツアーや移住相談で誘致

今年から700万人といわれる「団塊」世代の大量退職が始まるが、人口減に悩む地方自治体は新年度予算で大都市圏からの団塊誘致のあの手この手作戦を展開している。

例えば青森県では知識と経験の豊かな大都市圏の団塊世代を対象に５泊６日の田舎暮らしセミナーや実地体験ツアーを計画し、愛媛県では帰農希望者への体験イベント、相談会を実施して地方の活性化を進めるという。北海道では道内の76市町村と提携して、首都圏や関西圏の団塊世代13組を函館、網走などに１カ月滞在させ、成果をあげている。

～～「まち」から「むら」から～～

★第17回秋吉台カルスト高原健康マラソン大会

【日時】平成19年3月4日（日曜日）8時受付

【参加費】ファミリー・高校生以上 3,000円、小・中学生 1,500円、ウォークの部 1,500円

【申し込み】平成19年2月2日（金曜日）消印有効

秋吉台マラソン大会事務局 電話：083-923-3200

筆者多忙のため、今月は休載です。 再開を期待。

あめりか観光通信 その10 ～ボストン２～

松坂投手の行くボストンはどんな街？

今年も多くの日本人メジャーリーグ・プレーヤーが誕生しますが、中でも注目は松坂大輔投手ではないでしょうか。彼が春からプレーするボストン・レッドソックスはメジャーリーグの中でも老舗の球団として知られています。1907年に現在のレッドソックスと呼ばれるようになった球団のホームグランドは、1912年に作られた、メジャーリーグ最古の球場フェンウェイパークです。

ボストンはアメリカの歴史が始まった街として市内のあちこちに史跡が残されており、歩いて回ることのできる楽しく、美しい街です。アメリカ人なら誰でも知っているアメリカ建国の歴史が点在しており、彼らにとっても是非訪れたい観光地なのです。その点では日本の京都と共通するのではないでしょうか。

Bosutonn-Beacon.Hill,Street (Greater Boston CVB)

ボストンでの食事に欠かせないのが、ボストンの沖の大西洋で獲れる魚介類の数々です。ロブスターはその代表格で丸ごとゆでたものを溶かし、バターにつけながら食べるのが一般的です。私は醤油をもらって日本風に食べていますが、ないときはレモンを絞っただけでもその甘みの多い味は堪能できます。ボストニアンに欠かせないのはクラム・チャウダー。アサリとハマグリの中間ほどの大きさの二枚貝クラムを小さく切ったものにジャガイモなどの野菜をいれて、クリームスープで煮込んだものです。寒い冬には体を温めてくれますし、これだけは家庭の味のようにどこのレストランでもおいしくいただけます。

そして忘れてならないのはマグロ。ボストン港に水揚げされるマグロの８割以上は日本向けと言われるほど、多くは日本に送り出されますが、ボストンにある寿司屋で食べるマグロも本当においしい。

ボストンの人々のレッドソックスへの思い入れは想像を絶するほどです。その熱狂振りを描いているのが映画「２番目のキス」（ＤＶＤで発売されています）。ぜひボストンに来て、松坂の活躍を見て、アメリカの歴史を感じ、おいしいシーフードを堪能してください。（ＪＮ会員・井上嘉世子）

気象とお天気の話

天気予報と俚諺

「あした天気になーれ」。下駄を蹴り上げた子どものころ、表がでれば天気、裏になると雨ということだった。サイコロと同じで、全くランダムな現象であり、科学的な根拠はない。それほど天気予報が当てにならなかったのだろう。各地で、俚諺（ことわざといってもいい）と天気の関係を表す言い伝えがあった。「山に雲の笠がかかれば、雨」とか「浅間の噴煙が北西に傾けば雨、南なら晴れ」、「蛙が鳴くから、かーえろ」は雨が降る前に帰りなさい、ということなのだろう。

これなどは、ある程度の科学性はあるようだ。

私は、時々栃木県の黒磯でゴルフをするが、ここの天気は時々外れる。県単位の天気予報では晴れでも、急に雨が降ったりする。入り組んだ地形が、微妙な天気をもたらすのかもしれない。土地の人は、「しばらくすると雪が舞うよ」と言ったりする。山の様子と風の具合で判るらしい。経験から生まれた“ピンポイント予報”である。

これも子どものころ、フグを食べる時「気象台！気象台！」と唱えると、フグ毒に中らないという話があった。それほど、天気予報は当たらないものの代表だった。今や、隔世の感である。（加納）

今号は気象協会がお休みなので、代打で駄文を。

会員名簿

(敬称略)（個人会員名簿は公開していません

名誉顧問　：　松山善三（映画監督）
理事長　：　松尾道彦（日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁）
顧問　：　丹羽晟（前理事長、日本空港ビルデング相談役）
副理事長　：　白澤照雄（ＪＮ協会事務局長）、岡村進（小田急電鉄嘱託）、橘元雅司（元国鉄副総裁）、横山善太（㈱ＪＡＬＵＸ特別顧問）、大島愼子（ドイツワイン基金駐日代表）　、小竹直隆（元ＪＴB専務）須田寛（東海旅客鉄道相談役）
支部長　：　片山文彦（新宿支部）、水野卓哉（北陸支部）、田久保万里夫（立教支部）、長尾亜夫（九州支部）、須田寛（中部支部）、岩田弘三（神戸支部）、坂本眞一（北海道支部）、梅原利之（四国支部）

【団体会員】（2007年01月25日現在）

㈱朝日ネット、㈱アドバン、荒井建設㈱、アンデス電気㈱、安藤建設㈱、池田煖房工業㈱、㈱伊勢丹、射水市（富山県）、㈱井六園ワールド、岩田建設㈱、㈱エスシー・マシーナリ、㈱ＨＫＩアクシス、㈱大林組、隠岐の島町（島根県）、㈱奥村組、小田急建設㈱、小田急電鉄㈱、㈱小田急トラベル、鹿島建設㈱、鹿島道路㈱東京支店、大阪国際空港ターミナル㈱、㈱大塚ベバレジ、関西電力㈱、九城企業㈱、㈱九電工東京支店、九州電力㈱、九州旅客鉄道㈱、㈱熊谷組、㈱グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄㈱、㈱耕人舎、佐川アドバンス㈱、三協立山アルミ㈱、㈱三普旅行社、四国電力㈱、四国旅客鉄道㈱、清水建設㈱、㈱ジャルセールス、㈱ＪＡＬ－ＤＦＳ、㈱ＪＡＬＵＸ、㈱ＪＴＢ、㈱ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研㈱、新菱冷熱工業㈱、常磐興産ピーシー㈱、住友電設㈱、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷㈱、㈱銭高組、全日本空輸㈱、パーキングプロ㈱、セントラルリーシングシステム㈱、㈱ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業㈱、第一資材㈱㈱大気社、大興物産㈱東京支店、大成建設㈱、大成サービス㈱、大成設備㈱、大成ユーレック㈱、大鉄工業㈱北陸支店、大日産業㈱、㈱高商、高砂熱学工業㈱、㈱竹中工務店、㈱丹青社、中部電力㈱、ティーシートレーディング㈱東京支店、電研工業㈱、東海旅客鉄道㈱、東急建設㈱東京急行電鉄㈱,東京国立博物館、(財）東京観光財団、東京電力㈱、東光電気工事㈱、東芝エレベータ㈱、東北電力㈱、トーヨーカネツソリューションズ㈱、戸田建設㈱、名古屋鉄道㈱、西日本鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱、㈱西原衛生工業所、西松建設㈱日墨ホテル投資㈱、日本オーチス・エレベータ㈱、㈱日本海コンサルタント、日本空港ビルデング㈱、㈱日本航空インターナショナル、(財）日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、㈱日本プラント建設、ネスレ日本㈱、箱根町（神奈川県）、箱根建設㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱日立ビルシステム、㈱日立製作所、㈱ビッグウイング、福岡空港ビルディング㈱、㈱フェイクデリックホールディングス、㈱フィールドサービス、富士機材㈱、、藤長電気㈱、富士通㈱、プラネットワークス㈱、北海道旅客鉄道㈱、北海道電力㈱、北陸電力㈱、北海道空港㈱、㈱ホテル小田急、㈱ホテルメトロポリタン、前田建設工業㈱、㈱ホテルマリックス、マイナミホールデイングス㈱、三井住友建設㈱東京建築支店、三菱電機㈱、㈱ミルックス、(学）森谷学園、㈱山武ビルシステムカンパニー、有楽土地㈱、㈱ＵＳＥＮ、横浜貨物綜合㈱、横浜ビル建材㈱、㈱ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング㈱、りんかい日産建設㈱

特定非営利活動法人(NPO)
人と都市　観光の地球時代を　市民が支える
JAPAN NOW
観光情報協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル３Ｆ
電　話　０３(５３０４)９５００
ＦＡＸ　０３(５３０４)５６３２
E-mail　info@japannow.org
Home page　http://www.japannow.org
発行人：白澤照雄(ＪＮ協会事務局長)
編集長：加納　隆（ＪＮ協会理事）
発行部数：3000部　主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

おくればせながら、明けましておめでとうございます。今年も、情報紙ご愛読のほど、お願い申し上げます。２、８ページで紹介していますが、ＪＮ協会は月に１回のペースで研究会を開いています。岡村副理事長の発案で、講師選びや会場設定は杉事務局次長、寺前理事が座長で司会･進行、講演の内容は監事の前氏がまとめる、という役割分担です。

「旅の危機管理」からはじめて「観光の価値･評価」。そして、現在が「観光立国セミナー」で19回を数えました。まだ、しばらく続くことになりましょう。講師は料理評論家の岸朝子さん、40周年を迎えた常磐ハワイアン（スパリゾート・ハワイアンズ）を支える倉田保緒氏ら、バラエティーに富んでおり大変勉強になりました。会員さんへの還元ということで、会費不要・昼食付です。原則、毎月第3火曜日正午から、麹町の海事センタービルで。

まだ参加されていない方、一度覗いてみられませんか。　（加納）